

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流

1. 事業概要

【事業名】	アジア原子力エネルギー産学官連携教育研究ネットワーク
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	山田清志 東海大学国際戦略本部・本部長、教養学部教授
【事業形態】*	国際集会の開催
【実施期間】†	2009年7月15日～ 2009年 7月17日 (3日間)
【実施場所】†	東海大学校友会館(東京都)、東京電力柏崎刈羽原子力発電所(新潟県)
【参加国・地域】†	ベトナム、インドネシア、タイ、カザフスタン、モンゴル 等 9ヶ国・地域
【事業概要】	<p>持続可能な発展にも対応する可能性を有するエネルギーとして、原子力エネルギーが再び注目を集めている。特にアジア地域では化石燃料の代替エネルギーとしての原子力エネルギーに深い関心を示しており、各国で原子力発電所導入に関する検討が進んでいる。しかしながら、「新興」の原子力国では、先端科学技術である原子力利用を進めるために必要な人材が不足しているのが現状である。</p> <p>このような背景の下、政府が原子力立国を提唱し先端の科学技術を有する日本は、アジア地域の原子力新興国を我が国の国策とも通じつつ、安全・安心な原子力利用へと導く立場を早急に確立する必要がある。</p> <p>本企画は、日本の原子力技術の発展の一翼を担う原子力産業と共同し、原子力エネルギー導入を検討するアジア地域の原子力教育・研究を行う大学との間で新たに国際産学官連携コミュニティの構築の実現を目指すものであり、アジア地域の大学が一致して原子力の推進と持続可能な発展のために連携する端緒を開くものである。</p> <p>エネルギーセキュリティ対策ならびに原子力エネルギー導入による必要とされる人材の育成を「アジア共通課題」として捉え、課題への取り組み、それに伴う問題点を議論することにより、日本とアジア諸国の大学、研究機関、民間企業等との交流、人材ネットワークの強化等の促進につなげたい。</p> <p>ネットワーク形成の基盤形成の手段として継続的な国際シンポジウムの開催を通じ、次年度以降、原子力エネルギー産業に携わる人材のスキル要件の構築、各国が有する原子力エネルギー関連の教育研究施設のソフト・ハード両での能力の把握、ネットワーク内での産学連携共同教育プログラムの構築の可能性、ならびに目的達成のための研究交流を希求する。最終的には、アジア地域における産学官連携の原子力人材育成拠点の形成を目指すものである。</p> <p>また、今年度は、シンポジウムの開催に加え、招聘する有識者が日本の原子力エネルギーの最新技術にも触れてもらうよう、東京電力柏崎刈羽原子力発電所視察を設け、原子力産業および専門家との研究交流の場を提供したい。</p>